



Contents

- 03 企業理念
- 04 トップメッセージ
- 06 パイオラックスについて
 - 06 あゆみ～モータリゼーションとともに
 - 07 事業概要(At a Glance)
- 09 事業領域
 - 09 自動車関連事業
 - 10 自動車関連事業(CASE)
 - 11 自動車関連事業(生産拠点／真岡工場)
 - 12 医療機器事業
- 13 サステナビリティマネジメント
- 19 環境
 - 19 環境マネジメント
 - 24 カーボンニュートラルに向けた活動
 - 28 環境保全への取り組み
 - 30 生物多様性

- 31 社会
 - 31 人権の尊重
 - 33 サプライチェーンマネジメント
 - 36 人財
 - 39 ダイバーシティの推進
 - 40 ワークライフバランス
 - 42 健康経営
 - 44 労働安全衛生
 - 47 品質・製品安全
 - 50 社会貢献
- 52 ガバナンス
 - 52 コーポレートガバナンス
 - 56 リスクマネジメント
 - 57 コンプライアンス
- 59 データ集
 - 59 環境データ
 - 61 社会データ



編集方針

本レポートは、持続可能な社会の実現に向けたパイオラックスグループのサステナビリティへの取り組みをステークホルダーの皆様にご理解いただくために発行しました。当社グループでは本レポートを通じて、より多くのステークホルダーの皆様とコミュニケーションの輪を広げていきたいと考えています。

■ 報告対象組織

株式会社パイオラックス
パイオラックスグループ
(パイオラックスグループ全体を対象にしていない場合は、個々に範囲を記載)

■ 対象期間

2024年4月1日～2025年3月31日

※対象期間外の活動には年月を記載
※一部、対象期間外の写真が含まれる箇所があります

■ 参考にしたガイドライン

GRI サステナビリティ・レポーティング・スタンダード

■ 発行時期

日本語版 2025年12月(前回発行：2024年12月、次回発行予定：2026年12月)

免責事項

本レポートは、当社グループの計画・見通し・戦略・業績などの将来予測の記述を含んでいます。これらは、現時点で入手可能な情報から判断した事項に基づくものです。読者の皆様には以上をご了解いただけますようお願い申し上げます。

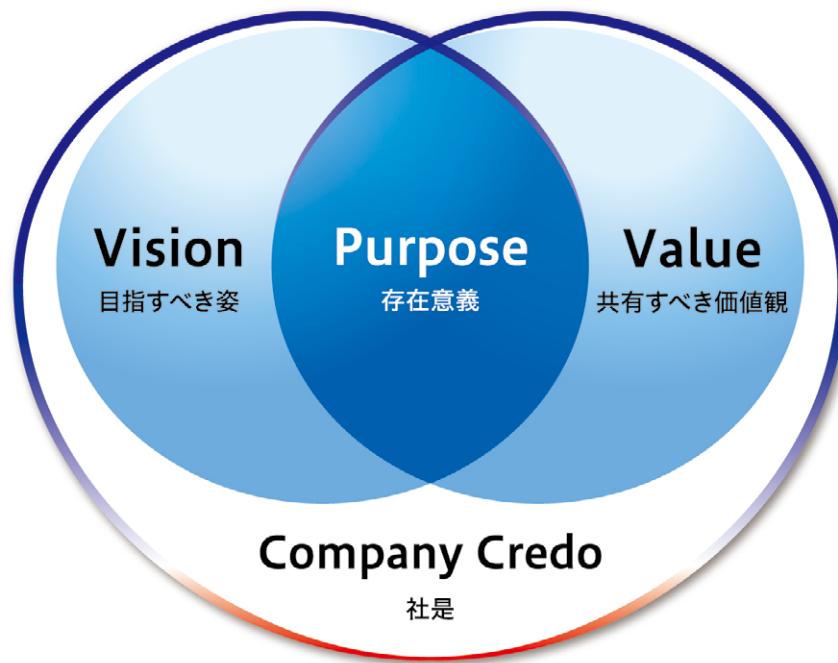
会社概要

- | | | | |
|---------|--|---------|--|
| ■ 商号 | 株式会社パイオラックス | ■ 上場取引所 | 東京証券取引所 プライム市場 |
| ■ 代表者 | 代表取締役社長 山田 聰 | ■ 売上金額 | 270億円(単体)／633億円(連結)
(2025年3月期) |
| ■ 本社所在地 | 神奈川県横浜市保土ヶ谷区
岩井町51番地
※2025年12月時点 | ■ 事業内容 | コイルばね、薄板ばね、ワイヤフォーム、金属および合成樹脂ファスナー、ユニット機構部品の製造および販売 |
| ■ 設立 | 1939年(昭和14年)9月 | | |
| ■ 資本金 | 29億6,097万円
(2025年3月期) | | |

企業理念

パイオラックス ウェイ

新しい企業理念「パイオラックス ウェイ」は、長年培ってきた弾性技術のパイオニアとしての技術と精神で、さまざまな人と人をつなぐことで社会の発展に貢献し、より豊かで安全・快適な未来を実現するための指針です。今後は「パイオラックス ウェイ」に基づいた経営戦略を推進し、企業価値向上を目指しながら、お客様、株主、従業員などのすべてのステークホルダーの期待に応えます。



Purpose

人と社会を技術でつなぎ、
心弾む未来を実現する

Vision

新しい価値の創造
– 弾性を創造するパイオニアからその先へ –

Value

- 1.パイオニアを志し、挑戦と変化を続ける
- 2.最良を目指し、熱意と信頼を以って協調する
- 3.創造性を尊び、自由にしなやかに発想する

Company Credo

至誠 協力 奉仕

TOP MESSAGE

サステナブル経営を成長エンジンに 事業活動と社会貢献を一体で推し進め、 会社と社会の心弾む未来を追求

自動車業界の大変革を背景に、自動車部品へのニーズも大きく変わりつつある現在の状況は、柔軟な対応力を強みに持つ当社にとってチャンスでもあるはずです。未来への投資とも表現できるサステナブル経営を成長エンジンに、会社と社会の双方の発展に尽力していきます。

代表取締役社長 山田 聰



自動車メーカーの増産だけに頼らない 新たな経営方針

1933年の創業以来、パイオラックスは自動車および電気・通信機器向け精密金属ばねの製造を基盤に、素材が持つ弹性をコアテクノロジーとして追求しながら発展してきました。これまでパイオラックスは自動車メーカーを主要顧客として、自動車生産台数の増加という「追い風」に支えられて成長してきましたが、昨今、お客様の生産台数は長期的に見ると伸びの鈍化が予想され当社への影響は小さくありません。この先行き不透明な局面にあっても成長曲線を描ける経営戦略として「自動車生産台数の増加だけに頼らない経営」への方針転換を決めました。

自動車関連部品のサプライヤーである以上、自動車生産台数の影響を受けることには違いありません。一方で過度な依存にあるなかでの成長は難しいと考えています。生産台数の増加だけに頼らない経営とは、トレンドを先取りした製品を開発し、自動車一台当たりの当社製品の採用数を増やすこと。既存事業の利益率向上と未開拓顧客の開拓、新規事業への参入によって、自ら未来を切り開いていく経営を意味します。

グループ一丸でカーボンニュートラル実現に貢献

その成長エンジンとなるのがサステナブル経営です。自動車業界はガソリン車からEVへの転換が進んでいます。欧米でのEVシフトの鈍化や、経済的な選択肢としてハイブ

リッド車への回帰があるにせよ、カーボンニュートラルを目指したEVシフトの流れが大きく変わることは思えません。欧洲を中心に環境規制が強まるなか、当社はお客様のニーズに応える形で、EVへの対応やリサイクル材の利用など環境規制への積極的な対応を推進しています。

環境への対応は当社のみではなく、グループ全体で目標、KPIを設定して進めています。当社は樹脂材料を加熱して成形する製品が多くあり、加工を行う射出成形機の熱効率向上が、CO₂排出量削減の鍵となります。生産現場で働く従業員の創意工夫で、射出成形機を断熱材で囲うなどの対策をしていますが、米国の工場では、従業員が自主的に日本の取り組みを進化させ、さらなる効率化に取り組む国境を越えたノウハウ共有も生まれています。海外グループ会社の環境意識

TOP MESSAGE

は高く、当社以上に取り組みが進んでいる面もあります。引き続き先進的な取り組みをグループ全体で共有し、実践していきます。

また太陽光発電の設置など、環境投資も継続していきます。実際にこれまで、多少のコスト高であってもグリーン電力を購入して確実に成果を上げています。

当社は製品にリサイクルの難しいエンジニアリングプラスチックを多用することもあって、材料メーカーと共にリサイクルしやすい材料の開発を進め、サプライチェーンを巻き込んだ環境対策にも取り組んでいます。

経営方針の転換により、新規受注獲得や取引拡大を目指す欧米の顧客は、環境対応はもとより人権への配慮が取引の必須条件でもあります。ビジネスの継続と成長、グローバル市場での拡大を目指すうえで人権への配慮は不可欠であり、グローバル市場を意識した人権への配慮に取り組んでいます。このようにサステナビリティの取り組みは単なるコストではなく、将来に向けた重要な投資であり、新たなビジネスチャンスを生み出す源泉であると捉えています。



組織改革を経てダイバーシティが着実に前進

2000年代初頭、当社は収益性向上を目的に、商品群をまとめて収益性の高い製品への資本投入を行うSBU(Strategy Business Unit)体制へと組織を変革し、高い利益を上げることに成功しました。当時の自動車生産台数が伸びる追い風の環境下では正しい選択でしたが、昨今、事業環境の変化とともに課題が顕在化してきました。

かつて「困ったときのパイオラックス」としてお客様から頼られ、多様なリクエストに柔軟に応えることが当社の強みでしたが、SBU体制による集中と選択により、お客様の多様なニーズに応えきれないという側面も顕在化してきました。社会課題が多様化・複雑化するなか、特定の分野に固執しているようでは成長が難しくなってきています。

そうした課題を解消するため、当社は2025年4月から第1弾、2025年7月からは第2弾の組織改革として、縦割りだった事業部制から機能別の組織へと大きく改編しました。この組織改革は、これまであった事業部間の壁をなくし、営業と開発・設計のチームが一体となってお客様の課題に本来の姿で向き合うことを可能にします。

この変革は従業員のモチベーションにも大きく影響を与えます。設計・開発担当者は従来の製品の枠を超えて新しいチャレンジがしやすくなり、また事業部にキャリアパスが固定されがちだったこれまでの状況を改善し、積極的な人員ローテーションを行うことで、従業員が多様なキャリアパスを描けるように支援します。これは中長期的な企業の成長力を高めるうえで不可欠です。組織間の異動が増えることは、多様な価値観が交わる機会を創出し、ダイバーシティ推進にもプラスに作用します。

重点項目として掲げるダイバーシティの取り組みは、着実に前進しています。国外採用の従業員を日本に招いて研修を実施するなど、国際的な人材交流が活発さを増しています。女性活躍推進についても成果が現れつつあり、管理職比率にはまだ改善の余地があるものの、女性従業員の昇格や昇進、採用数が増加傾向にあります。さらに、女性の執行役員やグループ会社において女性社長が誕生したことは、性別や国籍、文化に関わらず、誰もが活躍できる土壤が育まれてきた確かな証です。このような多様な人材が躍動する組織は、グローバルにビジネスチャンスを広げる重要な要素となり得ます。

業界の大変革をビジネスチャンスと捉えて

社員一人ひとりの仕事は、すべてサステナビリティにつながっています。例えば、EVに使用されるバスバーは装置の一部品ながらも車両の安全稼働を支え、お客様はもちろん社会に対しても価値を提供しています。成形機の熱効率改善やリサイクル材料の使用推進といった日々の業務も、環境負荷低減に直接貢献しています。

この「自身の仕事が社会課題の解決につながっている」という意識を社員全員が持つことで、世の中の多様なニーズをより深く吸い上げやすくなるはずです。結果として、製品の改良や新製品の開発を加速させ、新たなビジネスチャンスをもたらします。社会貢献と事業活動を一体で推進していくことで、会社と社会の双方の成長に寄与できると信じています。自動車業界では、大きな変化が始まっています。これはむしろ柔軟な対応力をDNAに持つ私たちにとって大きなチャンスだと捉えています。サステナビリティの取り組みを加速させながら、企業理念に掲げる「人と社会を技術でつなぎ、心弾む未来を実現」してまいります。



あゆみ～モータリゼーションとともに

1933年の創業以来、パイオラックスはばねの弾性を基盤技術に、主に自動車産業の発展に寄与する形で事業の拡大を続けてきました。

金属および合成樹脂を用いた製品の開発・製造力を基盤に、国産車の黎明期から国内外のモータリゼーションを支え、海外展開へと進めてきた90年間のあゆみを辿ります。

1930年代～



1960年代



1970年代



1980年代



1990年代



2000年代



2010年代～

大手自動車メーカーの前身会社が誕生

現在の国内大手自動車メーカーの前身となる会社が相次いで誕生。米国車が市場を寡占し、国産車も軍事用車両の製造が中心を占めるなか、後の乗用車量産時代の礎を築いていく。



会社設立当時の社屋
(横浜市保土ヶ谷区)

1933年
東京市本所菊川において「加藤発條製作所」を創業

1936年
本社を横浜市保土ヶ谷区岩井町に移転

1937年
日本フォードと取引開始

1939年
「加藤発條株式会社」として設立

1957年
横浜市保土ヶ谷区狩場町に横浜工場を建設

日本車産業の開花

欧米の車両を土台とした開発から一転、大手自動車メーカーによる日本独自の車両開発が進み、名車が次々と生まれる。高度経済成長や高速道路開通も追い風に量産化が進展。

排気ガスによる大気汚染問題が深刻化

都市部を中心に自動車の排気ガスによる大気汚染が社会問題となり、排ガス規制が活発化。低公害エンジンをはじめ、環境への影響に配慮した部品や技術の開発が促進される。



新設当時の真岡工場

1969年
樹脂ファスナーの製造を開始

1970年
真岡工場(栃木県)を新設

1970年
米国での現地生産を開始

1988年
東証二部に上場

1995-1996年
富士工場(静岡県)を新設

1999年
医療機器事業を分社化

性能の飛躍的な進化

国産車の高性能化がさらに進み、エンジンの電子制御が一般的に。外観もよりスタイリッシュになり、鉄製だったバンパーが樹脂製になるなど、パーツ性能・デザインとも飛躍的に進化。



医療機器分野を分社化

1995年
株式会社パイオラックスに社名変更

1999年
英国、韓国に拠点を設立

2003年
中国(東莞)に拠点を設立

2004年
東証一部に上場

2009-2012年
インド、メキシコ、インドネシア、中国(武漢)に拠点を設立

2025年
・事業部制から機能別組織へ組織改編を実施
・横浜市保土ヶ谷区に新本社完成

安全面の大幅な向上

いまでは標準装備となっているエアバッグやABS、衝突安全ボディなどが普及しはじめ、自動車の安全性が大幅に向上。併せてカーナビなどの走行サポートシステムの搭載も進む。

エコカーの全盛

環境面に対する意識の高まりを背景に、ハイブリッド車やEV車、燃料電池自動車などの研究開発が加速。エコカーの普及が顕著に進む。



タイ工場全景

さらなる技術革新へ

メーカー各社が環境対応技術に加え、自動運転技術や電動化技術、それらをサポートするコネクテッド技術などの開発に注力。CASEを中心テーマとする時代へと突入する。



プライム市場へ移行

2019年
中国(上海)に拠点を設立

2021年
中国(上海)拠点を中国統括会社化

2022年
・東証一部からプライム市場に移行

2025年
・事業部制から機能別組織へ組織改編を実施
・横浜市保土ヶ谷区に新本社完成

COLUMN



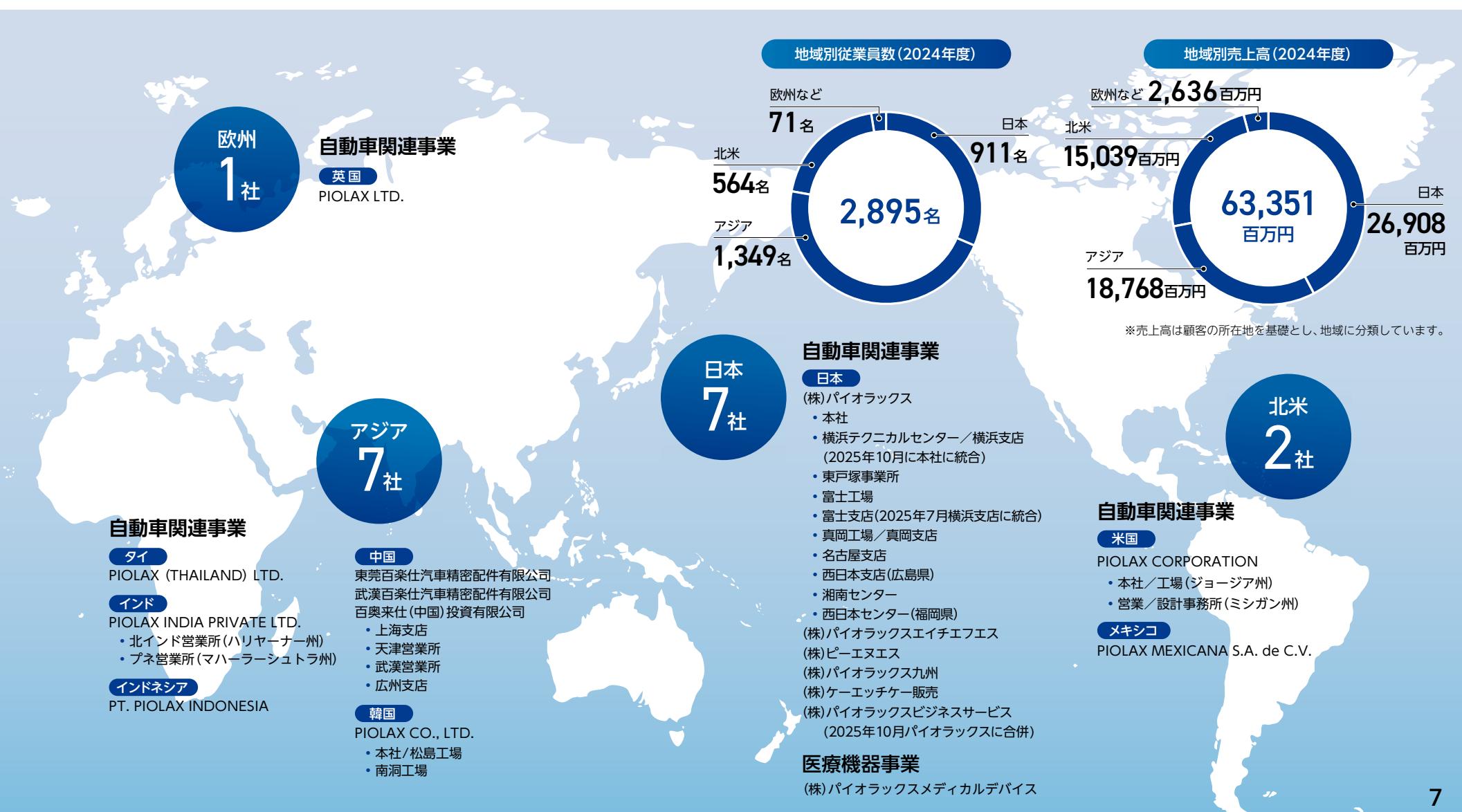
小さな部品が紡ぐ、モビリティの未来

自動車がもたらした豊かさは、環境問題や交通事故増加などの課題も生み出しました。パイオラックスが手がける部品は、数万点ある自動車部品のごく一部ですが、神は細部に宿ると言われるように、小さな部品の一つひとつにも妥協せず、環境や安全性の向上に努めてきました。CASEの時代を迎えるパイオラックスは小さな部品から持続可能な社会の実現に向け、新たな価値創造に挑戦し続けます。



事業概要(At a Glance)

パイオラックスグループは、国内に7社、海外に10社の事業拠点(2025年3月末現在)を置き、国内外の自動車メーカーを中心に、広範な取引を展開しています。



事業概要 (At a Glance)

自動車関連事業

EV関連部品

バスバーやガス抜きバルブなどの、バッテリーおよびモーター関連の部品。



開閉機構部品

グローブボックスの開閉機構に使われる、エアダンパーやラッチなど。



Fluid Controls(流体制御)部品

燃料を安全かつ確実に給油・貯蔵・供給するために使われる各種バルブ、コネクター、フィルターなど。



クランプ部品

パイプとゴムホースの接合部で、漏れ防止や抜け止めの役目を果たすホースクランプなど。



駆動系部品

トランスミッションなどの駆動機構に使われるリテーナーアセンブリや、部品保持力を高めるためのスナップリングなど。



ファスナー部品

内外装部品や配管類を車体に固定する、トリムクリップなどのさまざまな樹脂ファスナー、金属ファスナーなど。



ハーネス部品

車体の中を血管のように縦横に走る電線(ハーネス)類を、束ねたり車体パネルに固定したりするためのバンドクリップやテープ巻きクリップなど。



医療機器事業

血管内治療製品

がんや血管性病変を治療するためのガイドワイヤ、カテーテル、体内植え込み型医療機器を提供しています。これらの製品は、血管を通して治療を行うことで、患者さんの体への負担を軽減します。



消化器内視鏡製品

胆嚢領域を中心とした内視鏡処置・診断に必要なガイドワイヤ、ステント、処置具を開発しています。これらの製品は、より正確な診断と効果的な治療に貢献します。



脳神経外科領域製品

手術時に外した頭蓋骨を固定するためのプレートや、患者さんに合わせたチタン製のカスタムメイド人工骨を製造しています。これらの製品は、患者さんの回復と生活の質(QOL)の向上に貢献します。



レポート内では以下の略称で表記しています。

ICE : Internal Combustion Engine (内燃機関) / BEV : Battery Electric Vehicle (バッテリー式電気自動車) / HEV : Hybrid Electric Vehicle (ハイブリッド車) / PHEV : Plug in Hybrid Electric Vehicle (プラグインハイブリッド車) / FCEV : Fuel Cell Electric Vehicle (燃料電池車)



自動車関連事業

人と社会を技術でつなぎ、心弾む未来を実現する

パイオラックスは「人と社会を技術でつなぎ、心弾む未来を実現する」というパーパスのもと、自動車関連事業を通じて社会課題の解決を目指します。



TECHNOLOGY

パイオラックスグループ 製品群(自動車関連)	
主な製品機能	主な製品
● 弹性制御	ファスナー部品
● 締結	ハーネス部品
● 固定	クランプ部品
● 接続	開閉機構部品
● 束ねる	流体制御部品
● 開閉制御	駆動系部品
● 漏洩制御	CASE対応商品・新商品
● 制震機能	

パイオラックスグループが 貢献できる価値領域

「弾性」技術を駆使した 開発・製造・販売

高機能・高性能

- 金属と樹脂の高度な複合成形技術
- 高精度な弹性制御機能

グローバルネットワーク

- 8か国10社における海外生産・販売体制

高品質

- 厳しい基準をクリアするための品質保証体制

提案力

- お客様ニーズに対応した製品開発
- シーズ先行の研究開発

PEOPLE & SOCIETY

パイオラックスグループが お客様に提供できる価値

車体の軽量化

自動車のEV化

製品故障・トラブルの低減

車内のデザイン性向上

航続距離・燃費向上

快適な車室環境

自動運転技術の向上

組立工程の負荷低減

コスト削減

自動車以外の分野での活用

EXCITING FUTURE

パイオラックスグループが 解決に貢献できる社会課題

環境への貢献

- カーボンニュートラルの達成
- 環境汚染の防止
- サーキュラーエコノミーの推進

安心・安全な社会への貢献

- 交通事故の低減
- 高齢者や障がい者の移動支援

快適な生活への貢献

- 交通渋滞の緩和
- 物流の効率化とドライバー不足解消

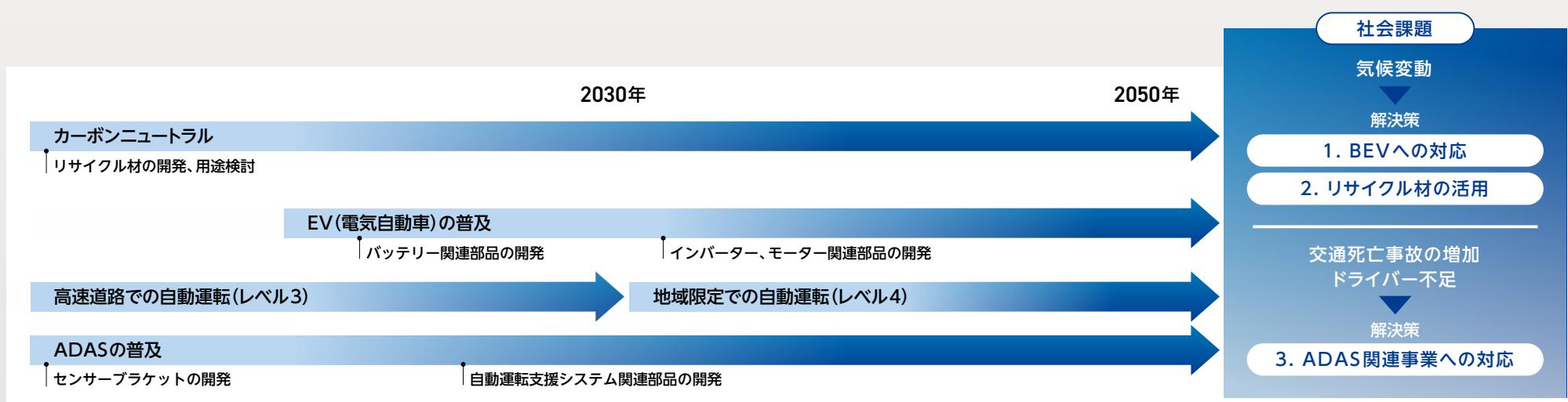
自動車関連事業(CASE)

新技術領域 CASEへの挑戦

気候変動、交通死亡事故、ドライバー不足など社会インフラに関わる課題解決の一翼を担う

自動車業界では現在、「CASE」と呼ばれる新たな技術領域で急速な変化が進んでいます。特に電動化が進むことで、当社がこれまで提供してきた一部の製品は、将来的に受注の減少や市場からの消失が予想されています。私たちはこの変化をビジネスチャンスと捉え、新製品の開発に積極的に

取り組んでいます。具体的には、自動運転技術を支えるADAS(先進運転支援システム)に関するセンサーやカメラ周辺機器、また電気自動車(EV)のバッテリー周辺で使用されるバスバーや冷却パイプなどの製品を開発・製造しています。これらの製品によって、社会課題解決への貢献を目指しています。



1 BEVへの対応

BEVの普及に伴い、バッテリー関連部品の開発に注力しています。その一つであるバスバーはバッテリーの大電流化に対応する部品で、設備投資を強化しています。バスバーは従来製品と比べ、配線の自由度が高く省スペースで効率的であり、車両の軽量化に貢献します。その他、バッテリーの冷却系統に使用される部品や、モーターやインバーター向けの冷却パイプの開発にも注力しています。今後もBEVの普及促進を支援し、カーボンニュートラルに貢献していきます。

2 リサイクル材の活用

環境負荷低減に向け、リサイクル材の活用を積極的に進めています。「高度マテリアルリサイクル研究会」に参加し、特にリサイクルが難しい材料のリサイクル、包材の自動車部品への活用の研究、バイオマス材料の自動車部品への適用可能性を探っています。これらの取り組みにより、資源の有効活用と廃棄物削減を進め、循環型社会の実現に貢献していきます。

➤ 外部団体などとの協同(高度マテリアルリサイクル研究会) (P.22)

3 ADAS関連事業への対応

自動運転技術の進展に伴い、ADAS(先進運転支援システム)関連部品の開発を強化しています。特に注力している製品は、カメラやセンサー、ソナーなどの周辺機器用ブレacketです。自動運転技術の発展は、自動車の安全性向上や交通事故の削減だけでなく、物流業界のドライバー不足問題の解決にも寄与します。今後も、高精度で信頼性の高いADAS関連部品の提供を通じて、安全で効率的なモビリティ社会の実現を支援します。

自動車関連事業(生産拠点／真岡工場)

自動化・省人化で目指す
「人にやさしい工場」



新工場内部

新真岡工場の特徴

- 次世代型設備、成形ラインの導入
- AI/IoT技術の活用による自動化ライン
- DXによる生産現場の効率化
- BEMSによるきめ細かなエネルギー管理



新真岡工場の外観

新真岡工場のミッション

真岡工場の隣接地に建設していた新工場の第Ⅰ期工事が完了し、2024年1月に正式稼働を始めました。2024年8月から第Ⅱ期工事に着工し、2025年9月に完了しました。この工場はグローバルマザー工場として、パイオラックスの中長期戦略における中心的な役割を担うため、右記の4つの機能を併せ持つ最先端の工場を実現することをミッションとしています。

【Beyond our dream】
～夢の向こうへ～

- ① 企業の持続的成長を支える機能
- ② 環境変化に対応できる機能
- ③ 新たな事業、技術開発に取組む機能
- ④ モノづくりの核である人財を育成する機能

省エネ性能の高い設備への投資

新真岡工場は、省エネに優れたスマートファクトリーで、CASBEE(建築環境総合性能評価システム)Aランクを取得しています。太陽光パネルの設置、空調設備の省エネ化、水の循環装置の設置など、カーボンニュートラルに寄与する最新設備を導入し、FEMS(工場に特化したエネルギー管理システム)を用いた建物内データの一元管理と効率的運用を行える工場となっています。

自動化・省人化を進め作業者の負担を軽減

新真岡工場では、材料の計量、袋詰め作業、運搬作業などの自動化・省人化を進めています。人による作業ミスを減らすことで生産効率を向上させ、2030年までに生産性200%を目指します。また、近年の異常気象による気温上昇で、職場によっては真夏に熱中症を招きかねないほどの高温になることがあります。空調の見直しだけでなく、自動化・省人化で人を介さない作業に変え、作業者にやさしい職場環境を作っていきます。

世界のモノづくり教育センター

新真岡工場では、新技術の開発と技術の継承の両面から、スキルとやりがいを育成する拠点を目指しています。今後、工場内に「モノづくり道場(仮称)」を新設し、グローバルでの技術伝承ができる設備や体制づくりに取り組みます。併せて、製造現場の安全について体験しながら学べる場の提供も検討しています。

医療機器事業

人生100年時代の健康で豊かな暮らしに貢献

子会社のパイオラックスメディカルデバイス(PMD)は自動車部品の開発で培った弾性技術を起点に、医療機器に必要な技術を養い、患者さんの体への負担を最小限に抑える低侵襲治療の医療機器を開発・製造・販売しています。主力製品の一つである消化器内視鏡用ガイドワイヤ「RevoWaveシリーズ」は、時代のニーズに合わせて製品も進化し、多くの医療機関で使われています。体への負担軽減、手術時間の短縮、治療精度の向上で患者さんの笑顔につながる医療機器を提供し、医療の進歩と生活の質(QOL)向上に貢献します。

パイオラックス メディカルデバイスの 目指す事業分野

キーワード

低侵襲治療

患者さんの体への負担が少ない治療方法は、高齢者など従来の手術に耐えられない患者さんの治療も可能にし、入院期間の短縮、医療費の軽減にも貢献します。

社会のニーズ 患者のQOL向上 高齢化社会への対応 入院期間の短縮 医療費の削減

世界中の患者さんに笑顔を

血管内治療製品



埋め込み型カテーテル



血管塞栓コイル



薬液混合コネクター



内視鏡用ガイドワイヤ



カニューラ



生検ディバイス



採石バスケット

脳神経外科プレート

内視鏡診断・処置具

技術

弾性応用

素材加工

精密微細加工

親水性処理

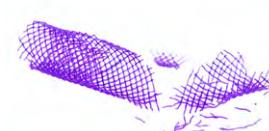
COLUMN

日本初の生分解性食道ステント

吸収性食道用ステント「ELLA-BDステントPX」



*分解前のELLA-BDステントPX



*加水分解後の状態

日本初の吸収性食道用ステント「ELLA-BDステントPX」が薬事承認を取得しました(承認番号: 30700BZX00048000)。本製品は、難治性食道良性狭窄(食道が狭くなることで食事が困難になる状態で、食道がん手術後に起こることがあり、既存治療が行われても繰り返し狭窄が発現する症状)の患者さんに対する新たな治療の選択肢として、治療回数の低減、経済的負担の軽減、QOL(生活の質)向上に貢献する革新的な医療機器です。

従来は、内視鏡的バルーン拡張術やブジー法による治療が一般的に行

われていました。これらの治療は通院、施術の頻度が高くなり再狭窄も短い周期で起こることから、食事が困難となり栄養摂取ができず、低体重、栄養失調などの症状を来すことがあります。「ELLA-BDステントPX」は、約3ヶ月で体内において吸収分解されるため、体外へ取り出す必要がなく、患者さんの身体的・経済的・精神的負担を軽減できると見込まれています。また、再処置の回数を減らすことで医療従事者の負担を軽減できる可能性があり、医療の質と効率を両立させる製品として、医療現場での普及が期待されています。